

# 舞台の遺伝子

## 輝き秘めた地球の不思議

少し薄暗い館内にずらりと並ぶショーケース。その中に輝きを秘めたものが所狭しと置かれている。切り取られた御影石の空洞に、によきによきと生えている黒い水晶。手のひらより大きな立方体で金色の鉄鉱石……。

まるで誰かが磨いたような形、光沢。なぜこんなものを地球が生み出したのか。そんな地球の不思議が詰まった益富地学会館3階にある「石ふしぎ博物館」(京都市上京区)には、地球の魅力にとりつかれ、鉱物や化石に夢中な人たちが出入りする。

地学の世界にはアマチュア研究者が多い。中でも益富壽之助氏(1901~93年)

### 益富地学会館

は、漢方薬の調剤で生計を立てながら鉱物研究に大きく貢献した大家の一人。その名は滋賀県で見つかった新鉱物「益富雲母」に残されている。

またこの会館は単なる研究機関ではない。家族連れや趣味人、学生など多くの会員を持ち、一般からも参加者を募る観察会

やフィールドワークを実施。夏休みには子供向けに河原の石観察会を開催するなど地学の普及に力を入れる。そこには、多くの人材を育てた益富氏の遺志が受け継がれているのだった。

3面に続く

普段は薄暗い石ふしぎ博物館内。陳列ケースのガラスに映る標本棚や外の景色が標本と重なって不思議な風景を演出した。京都市上京区の益富地学会館「石ふしぎ博物館」

